後援会だより

第 35 号
2023 年 3 月 10 日発行

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

本誌の案内

○あいさつ
後援会会長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
法文学部長（後援会顧問）・・・・・・・・・・・・・・・・・2
○専門職大学院報告
臨床心理学研究科長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
○就職支援事業
令和４年度就職支援室報告・・・・・・・・・・・・・・・・・3
就職活動にかかる交通費の一部補助・・・・・・・・・・・・4
○主な支援事業の成果報告
留学準備金支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
各種実習への支援（国内）・・・・・・・・・・・・・・・・・8
○令和４年度保証人アンケート集計結果・・・・・・・・・・9
○令和４年度後援会役員一覧・・・・・・・・・・・・・・・16

後援会会長あいさつ

法文学部後援会会長　松川　嘉孝

長引くコロナ感染症やロシアのウクライナ侵攻による世界情勢の変化により、人々の生活環境を大きく変えた令和4年度も終わりを迎えようとしています。

このたび、鹿児島大学・大学院をご卒業・修了されます学生および会員の皆様に心からお祝い申し上げますとともに、これまでの本会の運営に対するご理解とご協力に感謝申し上げます。

学生の皆様におかれましては、今だ続くコロナ感染症対策環境の中で、以前のような大学の教育活動ではなくなり、活動制限下の中での生活で自分が考えていること、チャレンジしたいことが出来ない事もあったかと思います。私事で恐縮ですが、私の好きな言葉（座右の銘）で「やってやれないことはない。やらずにできるわけがない。今やらずしていつできる。」というのがあります。お聞きしたことがある方もいらっしゃるのではないでしょうか。この言葉は、明治末期から昭和にわたり彫刻家として活躍された平櫛田中（ひらくしでんちゅう）氏が言われた一節です。何事も考えただけではやったことにならない、いつできるかもわからないので思い立ったら直ちに行動・実行するという考えです。

以前より生活環境は大きく変わり少し窮屈な世の中になったかもしれませんが、この言葉のように今という時間を無駄にせず前向きに行動していった方が人生をよりよく過ごせるのではないかと思っています。そして、学校生活での経験を良き糧として捉え、今後の社会生活の中で壁や困難に直面した時に、この糧が皆様の支えになってくれることを願っています。

最後に、昨年度に引き続き会長として1年、本会の運営に関わらせていただきました。この1年間、皆様には様々な形でご支援を賜り、この場をおかりし厚く感謝申し上げます。

また、教職員の皆様方におかれましても、以前と変わらぬ教育活動にすべく、日頃よりご尽力いただき誠にありがとうございました。本年度は総会をオンラインでの開催となるなど、皆様と想う様に意見交換や会員相互の交流もかないませんでしたが、会員の皆様には、大学の教育効果が発揮できますよう、今後とも本会の趣旨をご理解の上、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

法文学部長あいさつ

法文学部長（後援会顧問）　松田　忠大

法文学部後援会会員のみなさまには、日頃より、法文学部・大学院人文社会科学研究科の教育研究活動に対してご理解を賜るとともに、多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症は、拡大と縮小の波を繰り返しておりますが、今年度後期（2022年10月）より、法文学部および大学院人文社会科学研究科ともに、全面的に対面授業の実施を基本とする方針に転換いたしました。法文学部の建物、教室には、多くの学生の姿が見られるようになり、ようやく大学としての活気を取り戻しました。これまで、学生のみならず、後援会会員のみなさまにも、多大なるご心配やご迷惑をおかけいたしましたことを心よりお詫び申し上げます。

さて、法文学部では、教育研究の成果を地域に還元するための取組みを進めています。その一環として、昨年10月１日に、法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターが発足しました。これにより、法文学部は、司法政策教育研究センターとこのセンターの２つの附属センターを擁する学部になりました。

鹿児島は、わが国の近代化に貢献した多くの優れた人材を輩出した地であり、有形・無形を問わず、これに関する歴史的に貴重な遺産を有しています。また、豊かな自然環境のもと固有の文化や伝統が形成され、これらは現在に引き継がれています。「鹿児島の近現代」教育研究センターは、こうした地域的資源を教育研究に活用し、様々な課題解決のためにその成果を地域に還元し、鹿児島の活性化に貢献することを目標としています。この目標の達成に向け、このセンターでは、地域に眠る様々な歴史資料の保存・デジタル化に関する取組みを進めるとともに、法文学部の教員をリーダーとする多くの地域マネジメントプロジェクトを展開しています。

新たに発足した「鹿児島の近現代」教育研究センターには、新たに２名の特任教員（日本近代文学・地域マネジメント）が配置され、４月には、新たに２名の特任教員（日本近代史・文献資料学）も着任する予定です。これにより、法文学部における教育研究がさらに充実するものと期待しています。なお、法文学部の２つの附属センターの概要については、各センターの Web ページをご覧ください。

法文学部では、さらなる教育・研究の充実を図るとともに、地域貢献のための取組みも進めて参りますので、今後とも、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

専門職大学院報告

◎臨床心理学研究科

鹿児島大学大学院
臨床心理学研究科　研究科長　中原　睦美

変異を繰り返す新型コロナウイルス (COVI-19) 感染症対策は、日常生活との両立へとシフトしています。本研究科は当初から工夫を凝らし、学内外のご協力のもと可能な限り対面授業と学内・学外実習を提供して参りました。後援会の皆様には、平成19年度の臨床心理学研究科究科設置以来、「各種検定料金の一部補助」「臨床心理士養成に向けた学外施設実習に係る交通費補助」のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。以下に、令和４年度の主な活動を報告いたします。

１. 教育体制の工夫による手厚い教育の維持

欠員及び育児休業教員の対応として、佐野学長の了承の下、授業や実習指導に加え学生指導や心理臨床相談室活動、管理運営業務ができる特任准教授１人を医療領域の実務家教員として採用でき、４月１日付けで着任しました。当該の特任准教授は、本研究科の修了生であり、心理臨床実践に加え、博士学位及び科学研究費補助金を取得するなど研究志向も高い優秀な女性であり、心理臨床相談室非常勤カウンセラー２人とともに、在学生のロールモデルとなることが期待されます。３月には育児休業中の教員が復職予定であり、研究科教員は９人体制に戻ります。採用人事が厳しい状況にあるなか、「人が入れ替わっても教育の質を担保する」研究科の理念を維持していきたいと思います。

２. 研究科の実績の維持

昨年度、文部科学省から委託を受けた（公財）日本臨床心理士資格認定協会による専門職大学院認証評価で３回目の適格認証を戴き、今年度も新入生15人を迎え、充実した教育活動が展開されました。昨年に引き続きオンライン入試説明会を展開し、全国からの受験生や入学者が見られます。ありがたいことに法文学部からの受験生も増えています。この間、14期生の受験者全員が公認心理師試験に合格し、資格取得者は直近５年間で95.7％となりました。この公認心理師試験は、次年度から在学中の実施となるため、学生の益とすべく教育課程の検討を開始しました。臨床心理士試験合格率は、14期生まで含めた修了生の合格率は97.6％の高さを維持し、５年以上前の過年度生が合格したのは嬉しい知らせでした。就職率は、令和３年度修了生は100％を維持し、令和４年度は公務員心理職に４人が合格するなど、春に向けて全員就職を目指しています。全国各地でお役に立てる心理士として羽ばたいていくことを期待しています。上記の詳細は、臨床心理学研究科ホームページに掲載してございます。是非ご覧ください。

https://cp.leh.kagoshima-u.ac.jp/

就職支援室報告

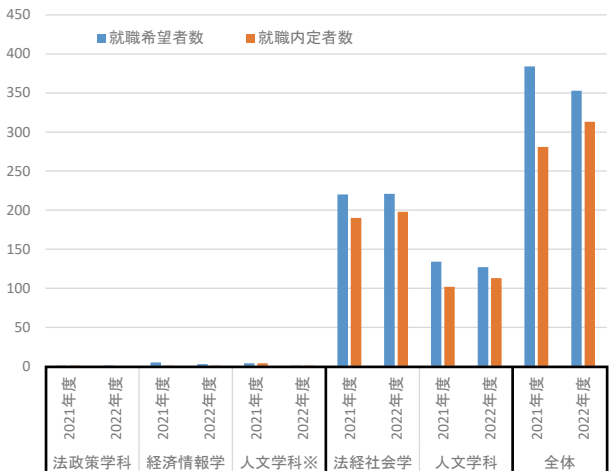
就職支援室長　**藤田　紘一**

コロナ禍に突入してから３年目となり、大学生の就職活動はオンラインの活用が前提となりました。2023年卒生は、１学年先輩のときに本格普及したオンライン就活の事情を知って臨んだ学生で、オンライン就活は、効率的に情報収集できるうえ、場所を選ばず参加可能となり交通費の負担も大幅に軽減されました。2022年卒生は、会社に一度も訪問することなく内定を得る学生もいましたが、感染状況が以前よりも落ち着きつつある現在は、最終面接の形式を対面にこだわる企業も少なくありませんでした。

また、就活生の企業選びは、前半はあこがれやイメージが先行するが、業界研究や面接などを経た後半は、より現実的に企業を見る傾向が強まりました。法文学部４年生の就活内定率については、下記グラフを参照してください。

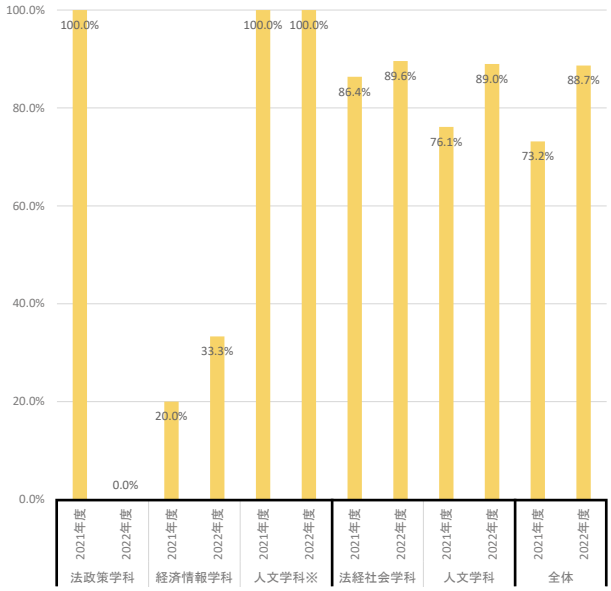
今回は、コロナが就職に与えた影響について述べてみたいと思います。コロナ禍では企業の採用活動が縮小傾向となっただけではなく、採用の方法そのものが見直されるきっかけとなりました。中でも特に大きく変わった点といえば、これまで直接顔を合わせて行われるのが当たり前だった会社説明会や面接がオンライン開催に変更となったことでしょうか。オンラインになったことで戸惑う学生もいたようですが、「遠方からでも参加できる」、「交通費がかからなくて済む」、「勉強や部活の合間に説明会やセミナーへ顔を出せる」など、好意的に受けとめている就活生も多かったようです。企業側にも、「説明会や面接のためにわざわざ場所を借りる必要が無い」、「金銭的コストや時間的コストが省ける」

卒業生の就職内定者数の比較（R5.2.1 現在）



「人文学科※」は旧カリキュラムとして区別しています。

就職内定率の比較（R5.2.1 現在）



「人文学科※」は旧カリキュラムとして区別しています。

といったメリットがあり、アフターコロナにおいて引き続きオンラインで説明会や面接を行う企業も少なくないでしょう。オンライン面接は通常のリアル面接とは異なり、「魅力をアピールしづらい」、「表情が伝わりにくい」と感じる人も多いことから、部屋の照明やメイクを工夫する、表情豊かに話すなど、オンラインに特化した面接対策も求められます。2024年卒生の採用活動において、どちらの方法が主流になるか断定はできないものの、リアル・オンラインのどちらにも対応できるよう準備を進めたいものです。また、最近の傾向として企業が優秀な人材を直接ハンティングする「ダイレクトリクルーティング」も増えてきています。このように人材を囲い込むことは、コロナ禍で「採用にかかるコストを削減したい」、「なるべく短時間で新卒人材を確保したい」と考える企業にとって最も効率的な採用方法の１つと言えます。中には、就活サイトに登録されたプロフィールや実績、自己 PR などを読んだ企業が直接学生へ「うちの企業を受けてみないか？」などと持ちかけることも。これまで学生からのエントリーが主流だった新卒採用の場において、企業側から学生へオファーを出すヘッドハンティング的な手法が取り入れられるようになっており、就活サイト上に掲載する自分の情報をいかに企業にアピールするか、という視点も今後必要になりそうです。いっこうに沈静化する様子も窺えないコロナ禍での就活に直面する2024年卒生の方は、以上の点を参考に内定取得に取り組んでほしいと思います。

◎就職活動に係る交通費の一部支援事業

法文学部後援会では、学生の就職活動を支援し、経済的な負担を軽減するため、交通費の一部を補助する事業を行っています。ここでは、この支援事業を利用して就職活動を行った学生からの報告を掲載しました。就職活動の現状を知る参考にしていただければ幸いです。

◆就職活動支援を受けて

法経社会学科４年　**中岡　美緒**

私は、鹿児島県内や九州内で採用がある企業を中心に就職活動を行いました。説明会は県内やオンラインで行うことがほとんどでしたが、選考に進んでいくうちに県外で面接をすることが何度かあったため、後援会の就職活動の交通費支援制度を利用させていただくことにしました。私が後援会の交通費支援制度を知ったのは、就職活動を意識し始めた頃、「後援会だより」が家に届いたことがきっかけでした。就職活動とアルバイトを両立することが難しかったため、アルバイトは３ヵ月ほど休職しており、一時は収入がほとんどない状態でした。そのような中で後援会が交通費支援をしてくださり、最後まで諦めずに自分が気になっている企業の面接を受けることができました。今後、就職活動を控えている皆さんには、是非後援会の交通費支援制度を利用し、興味のある職種の説明会や選考などには積極的に参加し、選択肢や可能性を広げながら、悔いの残らないような就職活動を行ってほしいと伝えたいです。一人で悩まず、周りにいる方々をたくさん頼ってください。

就職活動を通して、今までたくさんの方々に支えられていることを実感することができました。後援会の方々を含め、多くの人に支えていただいたからこそ、目標や自分の行いたい仕事を明確にし、自分が満足した状態で就職活動を終えることができたと思います。ご支援してくださった皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

◆就職活動支援を受けて

法経社会学科４年　**枇榔　翔吾**

私は、公務員試験合格に向けて大学3年生の夏前から大学生協が開催している公務員講座を受講していました。公務員試験の勉強では、復習を特に力を入れて取り組み、大学生協の模試だけでなく有料の模擬試験なども積極的に受験して自分の力を伸ばすことを頑張りました。バイトも新年が明けた2月から休職して勉強に専念しました。私は、地方公務員を第一に志望していたのですが、公務員は併願をたくさんすることができたので国家公務員などの説明会に積極的に参加して様々な仕事を調べながら就職活動を進めていきました。

私が就職活動を進めていく上で懸念だったのは、金銭面での負担です。公務員を目指す上で官庁訪問や説明会への出席は必須となります。コロナの影響もあって説明会などはリモートが多かったのですが、実際に面接や説明会の会場に行くことは多く、それが県外になるケースがありました。バイトも休職していたからお金に余裕もあるわけではなかっ

たので、志望先を減らすか悩んでいたときに友人から鹿児島大学の法文学部後援会からの交通費補助の制度があることを知りました。この制度を利用して自分の将来の選択肢を広げていこうと考え、たくさん併願して絶対に内定を勝ち取ろうと強く思いました。

私の就職活動は法文学部後援会・友人たち等の支援があって粘り強く進めることができました。ご支援してくださった皆様に深くお礼申し下げます。それとともに今後の鹿児島大学の学生の就職活動が今後より一層充実したものとなることをお祈り申し上げます。

◆就職活動支援を受けて

法経社会学科４年　**小野山　敦士**

私は、公務員試験合格に向けて大学3年の春から、予備校に入校しました。大学3年の1月からは、アルバイトを極力減らし、勉強に専念するようになりました。公務員の勉強を始めた当初は、鹿児島県内の市役所や県職員を目指していましたが、説明会に参加したり、自分で調べたりしていくうちに、鹿児島県外で公務員として働くことを視野に入れるようになりました。

就職活動が始まると、試験や面接のため何回も県外に足を運ぶ必要が出てきました。そういった中で、鹿児島大学法文学部の後援会から就職支援を受けることができるという情報を耳にし、事務局に相談しに行ったところ、とても優しく話を聞いてくださったり説明をしてくださったりしました。そして、この支援金を利用させていただき、無事に県外の試験に合格することもできました。このような支援があり、本当に感謝しています。

就職活動で、私は多くの方々に支えられていることを実感しました。進路を決定する際には予備校の先生などが親身になって相談を受けてくださったり、試験勉強や面接対策のときには友人の力をたくさん借りたりしました。そして、大学からもこのような支援金を通して支えてもらうことができました。それ以外にも多くの方々に多方面からサポートをしてもらったことで私は就職活動を最後まで乗り切ることができました。ご支援してくださった皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

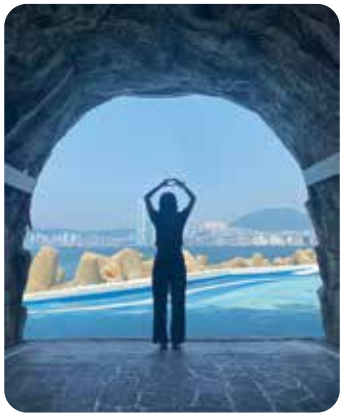
主な支援事業の成果報告

法文学部後援会では、会員の皆さまからお預かりした会費を、学生が国内外で行う調査実習の旅費や、教育・研究活動の経費の補助に活用しています。ここでは、その一部を成果報告としてご紹介します。また、新型コロナウイルス感染防止対策などにより、予定をしていた国内外での実習や教育・研究活動の多くを延期または中止せざるを得ない状況となりました。一日も早くこの事態が収束に向かいますことを心から願っております。

◎留学準備金支援

◆念願の韓国留学

人文学科4年　**中村　夏鈴**



私は、鹿児島大学の交換留学の制度を使い、韓国の釜山に所在する釜慶大学に11ヶ月留学しました。留学生活を振り返ると、多くの出来事があり、私の人生の中で最も思い出に残る11ヶ月になった気がします。 まず、学業の面では、留学前韓国語能力検定の５級を取得して留学に行きましたが、１年間勉強を行い６級を無事取得することができました。私は、他の日本人と比べ語学堂に通い本格的に韓国語を学ぶという勉強方法ではなく、毎日できるだけ韓国人に会い、「生きた韓国語」を習得できるよう努力をしました。学校の授業は、2021年後期10単位、2022年前期９単位を取得しました。最初の学期は、留学生の授業と学科の授業を聞き、最後の学期は就職活動前ということで、就職活動の授業と共通教育の授業を聞きました。この１年間、韓国語だけでなく、釜山の歴史や就職活動についても勉強することができたのでよかったです。 次に、１年間の旅行についてです。元々旅行を好きだった私は、コロナ禍ということもあって心配な部分もありましたが、せっかく韓国に来れたということもあって、できるだけ外に出るようにして様々な地域の観光を行いました。まず、釜山内は知らない場所がないと自信を持って言えるぐらいに釜山

を観光しました。その他にも、ソウル、デグ、ポハン、ウルサン、カンルン、スンチョン、キョンジュ、チョンジュなど多くの場所に行き、その他の美味しい物を食べ有名なところに行き、思い出を写真に残しました。また、釜山の観光団体が留学生を対象に行ってくれている観光ツアーにも積極的に参加し、ただ目で見るだけの観光ではなく、知識まで身につけることができたと思います。 最後に、この１年間を振り返って、一番大きかったのは精神部分の成長だと思います。22年間鹿児島の実家で生活した私にとって、初めて実家を出るという経験、さらに外国での生活というのは、自分の成長の機会になりました。元々、ポジティブな性格ではありましたが、最初韓国に行った時は言語の壁や文化の違いをとても感じました。わからないことがあっても、全部韓国語で一人で解決するということを経験し、これから先どんなことでも一人でできるという自信がつきました。そして、今回の留学はコロナの影響で１年半留学がずれ、留学の準備も当初考えていたよりも費用も多くかかり準備も大変でしたが、諦めず最後までやり通せたというこの経験が自分にとってとても良い思い出になりました。 鹿児島大学の交換留学という制度を通して留学に行けて本当によかったです。

◆韓国から見る日韓関係

人文学科4年　**田畑　絢香**

私は鹿児島大学の派遣留学制度を利用して、2022年２月から約10か月、韓国・ソウルにある韓国外国語大学に交換留学生として留学しました。派遣留学制度は鹿児島大学に在籍しながら、海外の大学で現地の大学生と同様に学生生活を送るという制度です。私はこの派遣留学制度を利用して「語学の向上と日韓関係の知識・意識を深める」ことを留学の目的として、前期・後期と１年間学んできました。

まず語学面に関してですが、私の目標は韓国語だけでなく英語も伸ばすことでした。渡航前のレベルは韓国語が非常に簡単な日常会話レベル、英語が日常会話レベルでした。韓国語は大学付属の語学学校に通い、英語は英語開講の授業を受講したり、オンライン英会話を利用したりと、毎日韓国語と英語の両方を使うように心がけていました。留学先で出会った友人たちとは韓国語で話す友人もいれば、基本、英語で話す友人もいました。韓国外国語大学というアジア屈指の外国語大学に留学したからこそ様々な国から来た友人を作ることが出来た上、英語を話す練習になったと、韓国外国語大学を選んでよかったと思いました。また夏季休暇から韓国語の力を伸ばすためにアルバイトを始めました。大学で聞く韓国語とは全く異なり、これが活きた韓国語なのかと最初は驚き聞き取りも大変でしたが、徐々に慣れていき、留学生活を通して最高の思い出が出来た場所でした。最終的に語学面では、韓国語は日常会話レベル、英語は後期、あまり使う機会がなかったこともあり、韓国語ほど伸びませんでしたが、それでも渡航前よりはレベルが上がったと実感しております。

次に留学の目標としていた日韓関係についてですが、「日韓関係論」という講義を受講しました。この講義では日韓関係を経済関係や外交問題、慰安婦や徴用工など植民地時代の遺産、天皇、教科書問題など日本と韓国が抱える問題についての講義でした。この講義を通して韓国の立場や韓国人学生の意見が知れたことは貴重な経験でしたが、それと共に自分自身の日本に関する知識が浅はかなことに気づきとても恥ずかしかったことを記憶しています。日韓関係を考えるうえでもう一度、日本について知ることが大事だと考えました。また、講義を通して韓国人が持つ植民地時代の知識を日本人の知識の差があまりにも大きいことに気づきました。我々日本人はされたことも大事ですが、やったことに対してもしっかりと目を向け、知る必要があると感じました。講義で学生たちとの討論を通して、教授や韓国人学生の意見に疑問を感じたり、意見が違うと感じたりしたこともありましたが、お互いが自分自身の意見をお互いに配慮しながら交換できたことは意味があり、良い経験になりました。

今後の進路については大学を卒業した後、ワーキングホリデーに挑戦するつもりです。渡航前から

考えていたことですが、留学で様々な国の人やバックグラウンドを持つ人たちの自由な生き方を見て、ワーキングホリデーに挑戦したいという気持ちが強くなりました。ワーキングホリデーでは英語圏に行き、新たに挑戦し始めたデザインの勉強を続けながらデザイン関連の仕事に挑戦したいと考えています。

◆なんでタイなの？と言われ続けた私しか知らない魅力的な留学生活

人文学科3年　**山崎　怜奈**

鹿児島大学の交換留学制度を利用してタイ・カセサート大学へ1年間の留学をした。目的は語学習得(授業が全て英語で開講されるため英語学習、さらに公用語のタイ語も同時に学習できる環境)、観光学（タイは年間4000万人を超える観光客が訪れる観光大国であり、現地で実際に観光の仕組みを学ぶため）のため。

学習成果について、前期は全ての授業がオンラインで開講されたため、留学ならではの人との関わりが想像より非常に少なく、がっかりすることもあったが、留学生寮に住んでいたこともあり、少ないながらも様々な国からの留学生と共にたわいもない会話や食事を楽しんだ。授業では、グループワークが多く、同じグループの生徒に私の低レベルの英語により迷惑をかけたと自負しているが、そんな中でも嫌な顔を一切見せずに優しく協力してくれ、ありがたかった。観光学の授業は専門用語が多く、1つの単語が聞き取れないと、ずるずると理解ができなくなり、いつの間にか、次のページに進んでいるということが何度もあった。そのため、授業前の予習として単語調べを中心的に行った。

タイはプラスチックの使用量が非常に多く、世界で6番目だそうだ。私も日常の至るところでプラスチックを眼にする。屋台のご飯をつぐプラスチック皿、それと共にカラトリー。飲み物もプラスチック素材容器。そのため、環境問題に大きな影響を与えており、それが今後の観光業にも影響を与えてくると学んだ。タイ政府は少しでも消費を抑えようと様々な取り組みをしているが、その成果はなかなかといったところである。このようなサスティナブルに反した行動などについて今後の観光業への影響、その影響を防ぐための解決策などを話し合った。タイの観光業にはまだまだ沢山の課題があるが、文化や食、魅力が詰まった国である。

タイを訪れる前は、主に英語習得に力を入れようと考えていたが、過ごしていくにつれ、日常でタイ語で生活したいと考えるようになった。前期はあいさつ程度のタイ語のみだったが、後期はタイ語の書き読みの授業を選択し、タイ文字を習得した。カセサート大学には日本語専攻があり、そこの生徒たちと言語交換をしながら話すのが非常に楽しかった。

タイといえば1番有名なのは首都バンコクだが、他にもリゾート地であるプーケットや古い文化を持つチェンマイなど沢山の観光都市がある。1ヶ月に2回のペースでバンコク以外の都市を旅行できたことを非常に価値のある経験だったと考える。ネットや本でしかみることがなかった建物や食べ物を実際に体験することに意味があると考える。また、タイ以外の国、マレーシアやベトナムも訪れることができた。ベトナムはタイから飛行機1時間半で着き、鹿児島から東京までの時間と同じなのにも関わらず隣の国に行けるという、島国である日本にいるときはあり得なかった距離感に驚いていた。学期間の休暇が3ヶ月あったこともあり、日系企業でインターンシップに参加した。実際に、タイ支店を持つ企業に電話をかけ、アポを獲得したり、実際に企業訪問をしたり、社会人のような日々を送り、その一方で社会の大変さを知り、一生学生でいたいと願ったこともあった。しかし、ただのアルバイトでは体験することができない部分を知るきっかけになった。

今後の進路について、私は中学生の頃にカンボジアを訪れた時、日本の平和があたりまえではないことを知り、それから途上国支援などに興味を持つようになった。タイを選択した理由の1つは貧富の差が大きな国で生活したいからだった。私が実際に住んでみてわかったことは豊かさ＝幸せではないことだ。私は豊かになれば、人は幸せになるから、まだ技術が発展していない国の役に立とうという

漠然とした夢を抱いていた。しかし、それは私の思い込みで、貧しくても楽しそうに生きている人達を目の当たりにした今、自分の将来に疑問を抱くようになった。まだ自分の中で答えは出ていないが、そのことに気づかせてくれたことがタイ生活での最も大きな習得だ。

◎各種実習への支援（国内）

◆「飫肥城下町調査」

（2022年12月10日～11日。現地1泊2日）

法経社会学科3年　**川越　日香里**

私たち地域社会コースの中島ゼミでは、ドイツの中小都市のまちづくり、中でも歴史的中心部である旧市街の保全と活用や都市の緑化の取り組みを各都市のホームページやドイツ環境省のビデオなどから学んでいます。

今回はドイツの旧市街によく似た宮崎県日南市飫肥の城下町を訪ね、重要伝統的建造物群保存地区を中心にその歴史的・文化的特徴や保全と活用の状況を現地で見学しました。またコンパクトシティの観点から、城下町にどのような都市機能（官公庁、文化・教育施設、病院、宿泊施設、商店、オフィスなど）が存在するかをグループに分かれて現地で調査しました。この調査結果は後日、ほぼ同じ規模のドイツのネルトリンゲンの旧市街の状況と比較する予定です。

今回の研修で考えさせられたこととして、今後城下町などの歴史的建造物が並ぶ街をどのように守り活かしていくかということでした。私の出身地である埼玉県には川越市という飫肥と同様の重要伝統的建造物群保存地区があります。川越市は埼玉県屈指の観光地であり、コロナ禍以前は年間700万人以上の観光客が足を運ぶ場所です。飫肥に訪れたときにも、城下町のイメージとしては川越市のイメージが自分の中では先行していました。実際、飫肥に行くと城下町は見知った川越市のものとは全く異なり、飫肥にしかない人々の紡いだ歴史や街並みの美しさに心を奪われました。

それほどにも飫肥の人々の想いを感じとれた一方で、その分残されたまちの魅力たる資源をどう活かすのかが大事になると考えさせられました。川越市は確かに多くの観光客を集める全国屈指の観光地であり、そのノウハウなど飫肥に活かせる部分もあるかもしれませんが、同じ城下町であっても同じ方法でまちを作っていくことが必ずしも正解ではなく、その町にしかない魅力を引き出すことが重要なのではないかとの考えに至りました。

今後は卒論テーマの一つとして検討すると同時に、より一層広い視点でまちづくりを考える上でのヒントとしていきたいです。地域を構成する要素は語り切れず、今回研修で見てきた歴史的なまちの保全もそのひとつです。地域を考える上では、そのどの要素も大切にしたうえでの地域づくりが必要だとも学んだので、研修も一助に学びを深めていきたいと考えております。

◆臨床心理士養成に向けた学外施設実習を通じて学んだこと

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科1年　**塚元　志津久**

私は今回、医療法人慈和会大口病院にて学外実習をさせていただきました。医療法人慈和会大口病院は昭和29年に開設され、伊佐地区唯一の精神科医療機関です。認知症、統合失調症、気分障害をはじめとしたさまざまな疾患に関して、地域密着型の医療、支援がなされています。精神病棟はもちろんのこと、地域以降機能強化病棟、認知症治療病棟があり、また関連施設として障害者自立訓練施設、グループホーム、就労継続支援B 型事業所が併設されています。このように、さまざまな心の不調を持つ患者さんに対して、住み慣れた地域で健やかな心で生き生きと暮らせるよう、親愛の念をもって患者さん一人一人の心に寄り添い、チーム医療で問題解決に取り組まれています。

大口病院での実習を通して、精神科デイケアや就労支援施設、認知症デイケアなど、各活動や施設での心理士としての役割について、理解を深めることができました。なかでも、認知症デイケアでの患者

さんとの関わりが印象的でした。心理士は、患者さん本人が抱く、忘れていくことへの恐怖心や家族との問題など、認知症を患ったことによって抱える悩みや不安に対して、「最近はどうですか？」と、最近の様子や気分の変化を尋ねることから始めることで支援につなげていくことができると感じました。そして、話を聴く中で、患者さんが「今が楽しい」と思えるよう、これまでの人生の意義を見出すという、統合への手助けも重要だと学びました。また、患者さんだけではなく、家族への支援も大切にされていました。送迎の際にご家族と話をするという心理士側からのアプローチによって、悩みを共有できる人の存在に気付いてもらうことができるため、視野を広く持ち周囲の人への支援を行うことも心理士の役割であると考えます。

加えて、大口病院の方針として、医学的な視点から患者さんを見立てる力を養ってほしいという意向があるという話を窺いました。心理士が予備問診を担当するなど、精神科医と対等な位置でいることが求められており、今まで抱いたことのない心理士像であったため、その点が最も新鮮でした。心理士は、ただカウンセリングや心理検査をこなすのではなく、患者さんを見立て、どのような支援が必要であるかを吟味する必要があります。だからこそ、医師や看護師等とのより迅速な連携が可能となると感じました。

今回の実習にあたり、後援会の皆様には温かいご支援を頂き、誠にありがとうございました。精神科病棟や就労支援施設、認知症デイケアなどでの心理士の役割や、患者さんとの関わり方を実際に見聞きすることができ、貴重な経験となったとともに、心理士としての目標をより明確にすることができました。本実習で得た学びを糧として、今後もより一層精進して参りたいと思います。

令和4年度 保証人（保護者）アンケート 集計結果

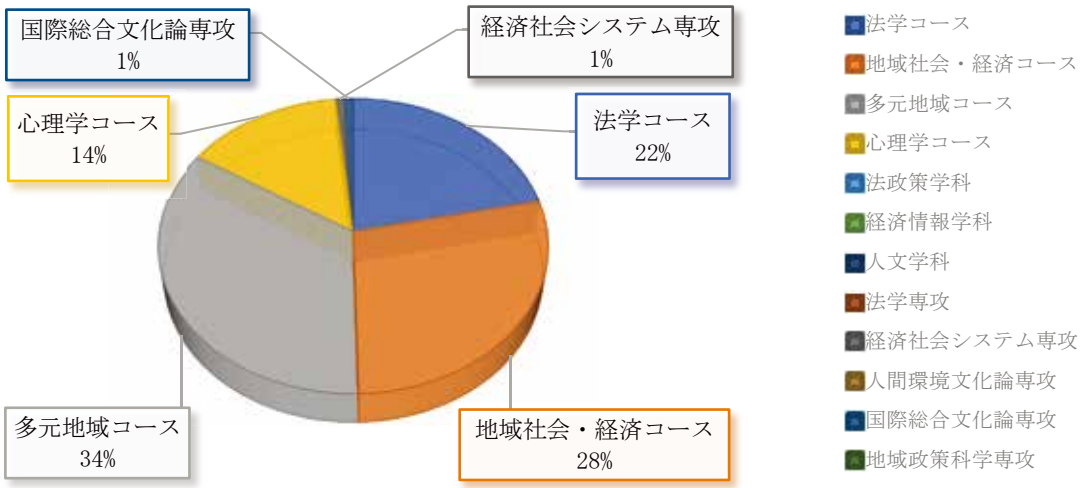
保証人（保護者）アンケートは隔年で実施されています。前回は令和２年。今年は6月15日付、鹿児島大学法文学部長・人文社会科学研究科長、松田忠大の指示により、前回同様、学生生活委員会が実施。

過去のアンケートは紙媒体による配布・回収でしたが、今回は office365の Forms により作成。その QR コードを後援会を通じて保証人（保護者）の方々に送付し回答を求めました。期間は6月15日から7月31日。

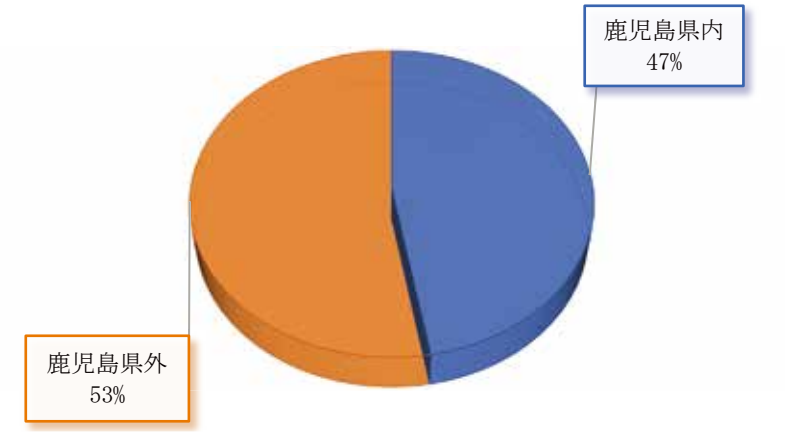
結果、125名の方々から回答を得ることができましたこと、厚く御礼申し上げます。以下、その内容を要約してお知らせするとともに、引き続き法文学部・人文社会科学研究科での教育、研究をご支援頂けますよう、お願い申し上げます。

学生生活委員会（作成・編集代表：副委員長　横山春彦）

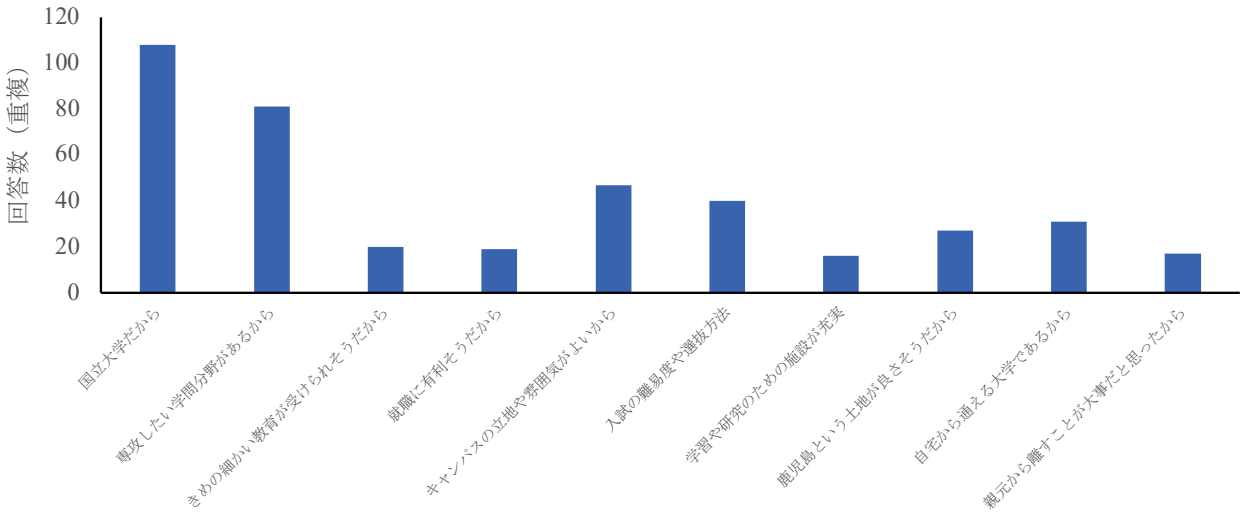
1.学生ご本人の所属についてお答えください。



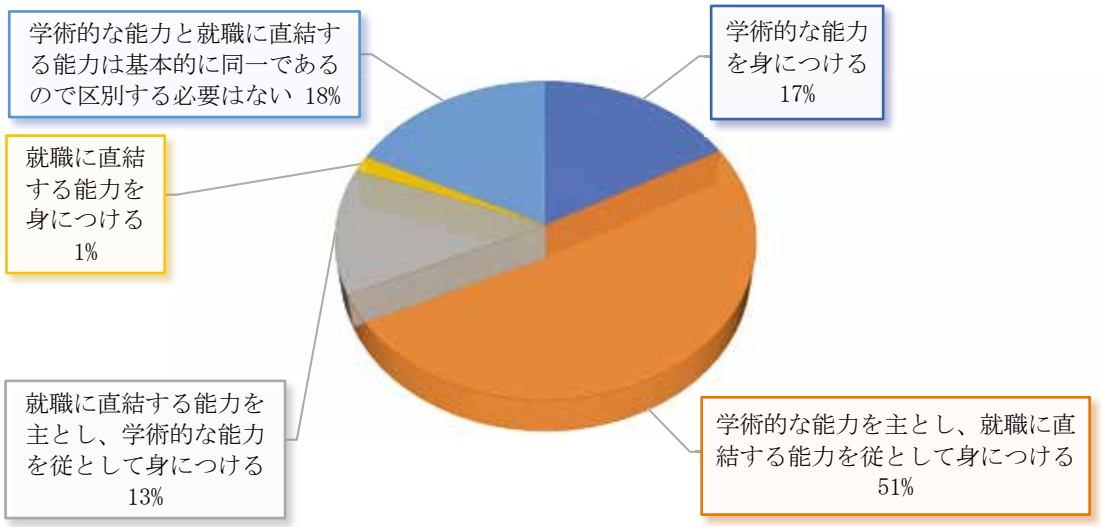
2.あなたのお住まいはどちらですか。



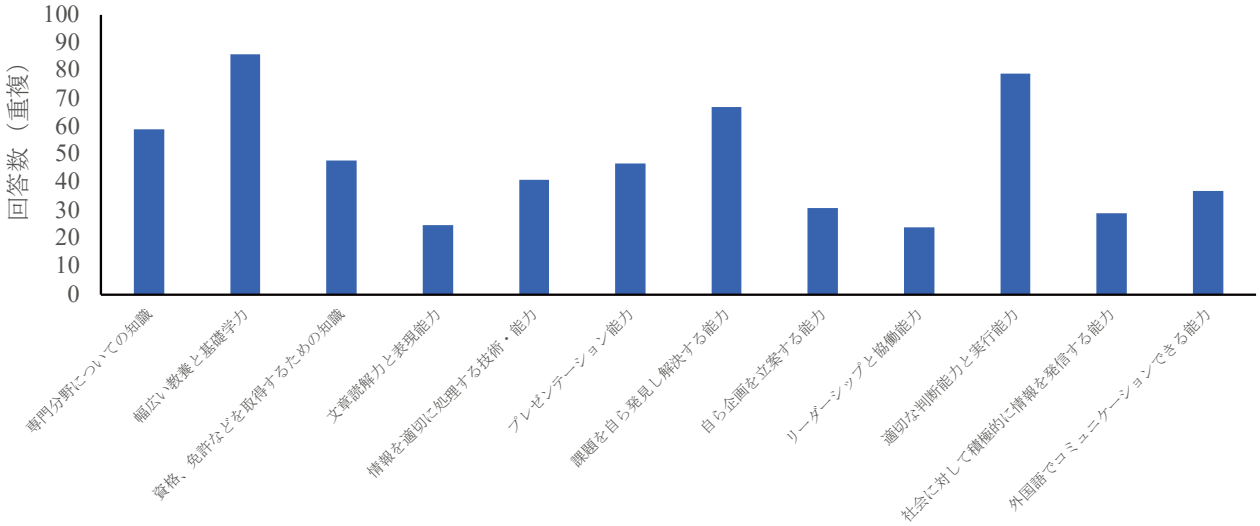
3. 学生ご本人が本学部・研究科を選択した際に、あなたが重視したことは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



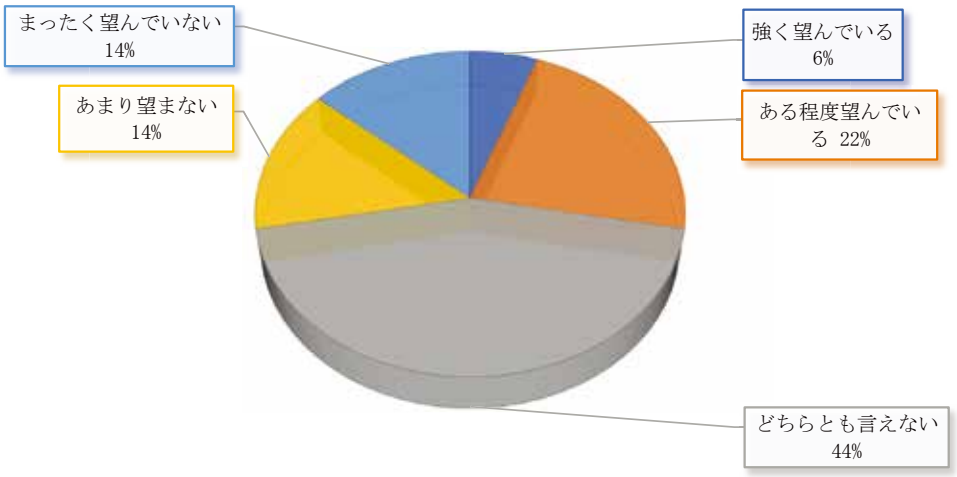
4.あなたは本学部･研究科での教育の目的についてどのようにお考えですか。



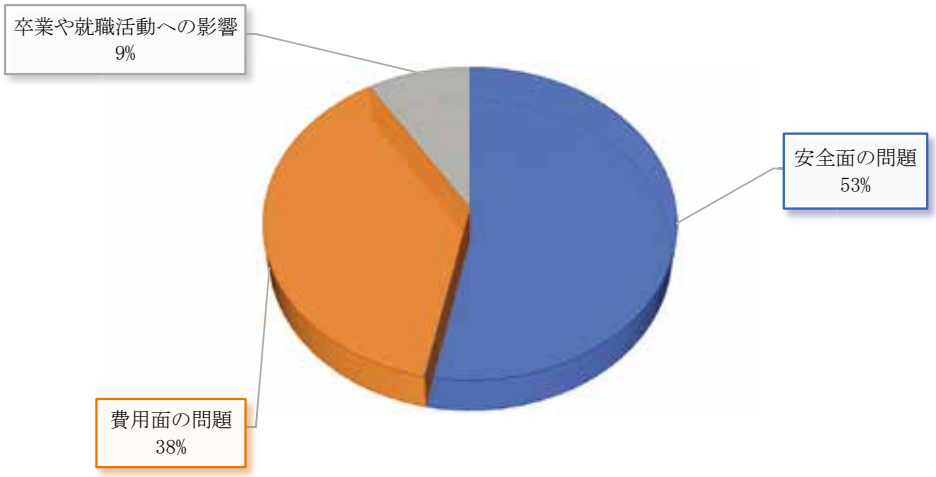
5. あなたは学生ご本人が本学部・研究科でどのような知識・能力を習得してほしいとお考えですか。あてはまるものをすべて選んでください。



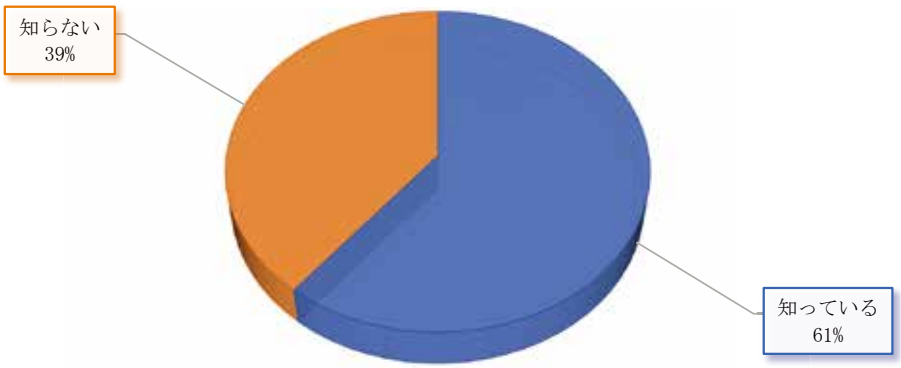
6.あなたは学生ご本人の海外留学を望んでいますか。



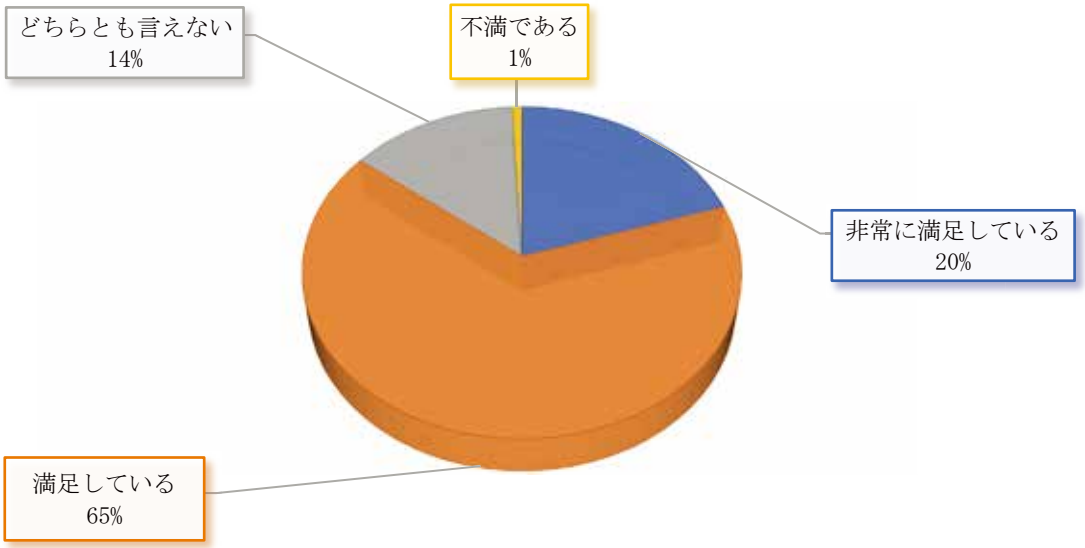
7.あなた自身、海外留学で懸念されることは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



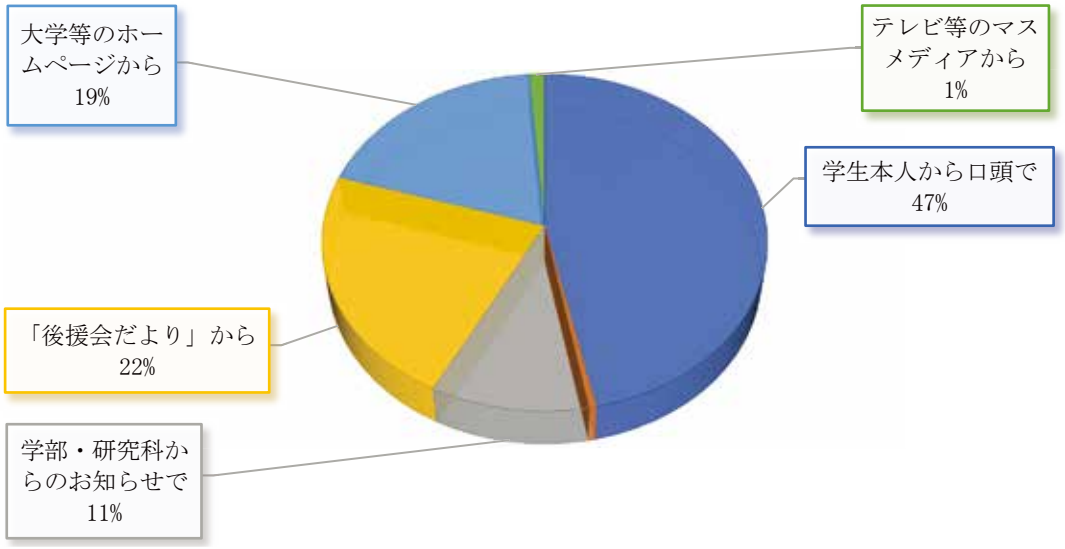
8.あなたは海外の大学と交換留学の制度があることをご存じですか。



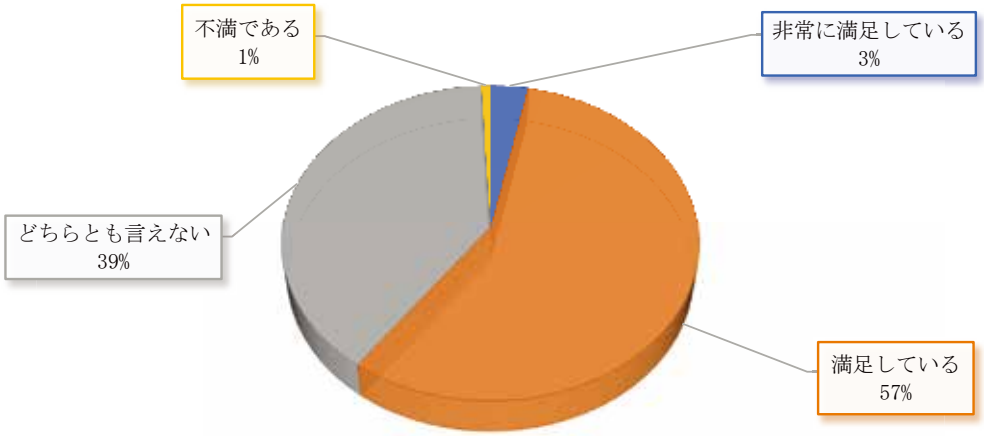
9.あなたは学生ご本人が本学部･研究科で学んでいることに満足していていますか。



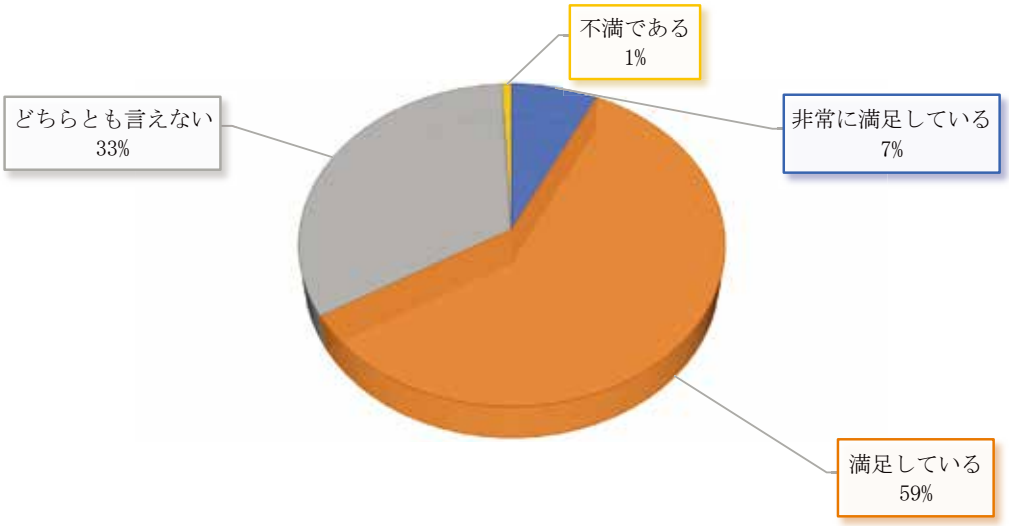
10. あなたは本学部・研究科の動向や学生ご本人の学習等についてどこから情報を得ていますかあてはまるものをすべて選んでください。



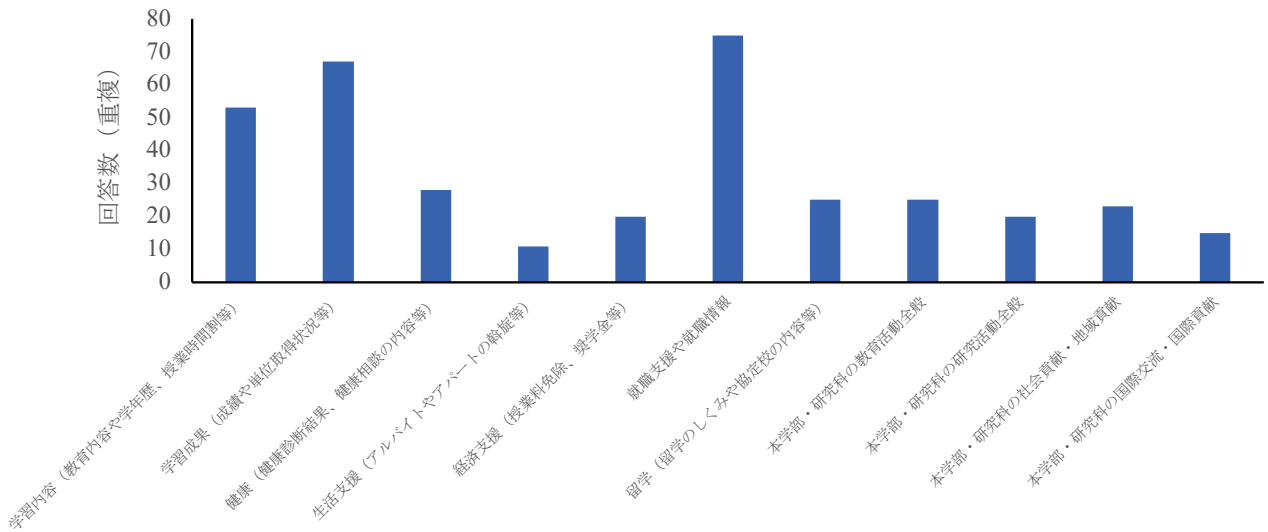
11.あなたは本学部･研究科からの情報提供に満足していますか。



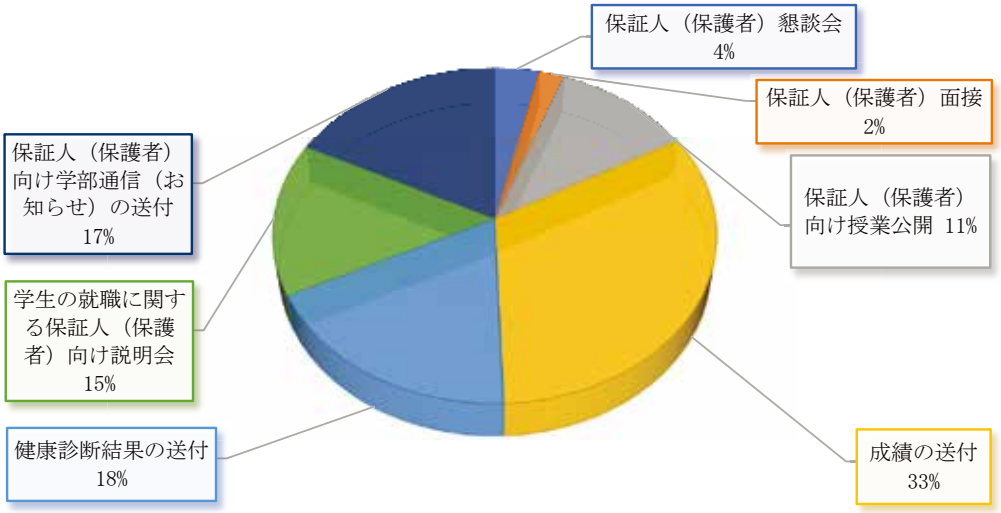
12.「後援会だより」（年2 回）の内容・刊行頻度等について満足していますか。



13. 学生ご本人に関して、もっと知らせてほしい情報は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



14. 保証人（保護者）向けに実施してほしいことは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



◆その他要望やご意見等（※項目の関係上、一部改変・分割しています。）

● 教育・研究・成績通知

◇人文学部で韓国語の講師がいらっしゃるし、ホームページでスピーチ大会等の活躍を見て地元でも韓国語を学べると思ったのですが, 韓国語のとりたい授業が抽選で外れて取れなかったと聞きました。抽選で学生の学ぶ機会を奪うことが大学の方法なのだろうかととても疑問に思います。希望の度合いも考慮できないものでしょうか。そんな抽選だとは思わず, 大学選びの際, 鹿児島でも韓国語が学べるのではと鹿児島大学を勧めた手前, 子供に申し訳なかったと残念に思います。

◇入学式もなく、大学にも入ったこともなく、離島で子どもと離れているため、入学した実感もなく、何も情報がわかりません。親向けの学科かコースのSNS があれば見たいです。子どもの学んでいる姿が見たいです。

◇前期、後期とも保護者宛に保護者宅へ成績送付してほしい。

●留学

◇ありがたいことに今娘は交換留学制度を使い留学してます。いろいろな、支援ありがたく思ってます。不満点は特にありませんが、留学先での単位の有効性について明白な指針を示してもらえると助かります。不明すぎます。

●資格・就職

◇コロナの影響がとても大きかったように感じる。大学での学習が充実できていたか多少心配なところもある。公務員志望で現在活動中だが、良い結果を期待している。

●進学・大学院

●後援会

●オンライン授業

◇お世話になっております。オンラインと対面の授業が混在する中、自宅に帰れない学生のオンラインでの授業を受ける場所について、教室があるとは聞いていますが、声を出さなければいけない場合が使いにくいようです。何か対策ができれば、対応をお願いしたいです。

◇コロナ禍で調整も大変だとは思いますが、県内外の他校に比べて、対面授業が大変少ないように思います。残り1年半、少しでも通常に近い大学生活を過ごさせていただきたいです。

◇全てオンライン授業ではなく、一部は対面にしなければならないルールだとよいです。

◇他大学に比べて、オンライン授業の比率が高いのが気になります。一人暮らしということもあり、孤立しないか不安です。

●感想など

◇一人暮らしをしているため、どのような日常を過ごしているのかわかりませんが、「とても幸せです。鹿児島大学に来れて良かった！ありがとうございます」と本人からメッセージが届き、1年間の成績も良かったので、親としては大満足です。鹿児島大学に行かせて良かった。きっと法経学部で良い師や仲間と出会えたのだろうと感謝しています。ありがとうございます。

◇今後とも、よろしくお願いします。

◇いつもお世話になっております。今後ともよろしくお願いします。

◇特にありません。

◇今後ともよろしくお願い申し上げます。

◇回答に困りました。

◇いつもきめ細やかな相談やアドバイスをしていただいていることが、子どもから伝わってきて感謝しています。コロナ禍で、いろいろな状況が変化する日々。今後も、よろしくお願いします。

おわりに

貴重なご意見を多くいただきましたが、この場をお借りしまして担当部署より情報を得られたものを含みまして、特に情報提供になればと思われることについて下記に示します。一部ご指摘の趣旨と異なるところもございますが、多くの皆様へのご参考になればと思い掲載しました。ご海容いただければ幸いです。

1. 成績通知について

現在、法文学部では、年に1回10月上旬にのみ保証人の皆様への成績通知を行っています。ご確認いただき、参考にしていただければ幸いです。送付にあたっては、学生本人がweb に登録している保証人のご住所へ送付しておりますが、一部、住所の誤字・不足等によりお届けできていない場合がございます。該当する学生については登録住所の変更などを依頼しておりますが、保証人様におかれましても、住所の変更等がございましたら、学生へ変更の手続きをするようお伝えいただければ幸いです。

2. 大学院入試の情報について

他大学の大学院についての情報は、募集要項が送付されてきたものについて、就職支援室で随時閲覧可能な形で情報提供しています。

本学人文社会科学研究科についての情報は、例年６月上旬に募集要項およびパンフレットが発行され、同時期にホームページに掲載しております。また、７月上旬と１２月上旬に大学院入試説明会を実施しています。

3. 就職・資格関係

就職傾向の情報につき公開しているものや在学中に取れる資格の説明は、法文学部ホームページやパンフレットに記載しています。資格については、学生に配布している「修学の手引き」に記載されています。

なお、教職免許取得については、1年後期（例年2月）に「教職ガイダンス」を学生向けに実施し、「教職カルテ」と「教育職員免許状取得ガイド」を配布して、スケジュール及び単位の取り方を指導しています。興味をお持ちの学生には是非参加するよう勧めて下さい。

また、卒業後も就職支援センターのアドバイスを受けることができます。

「就職活動体験報告集」3月頃、3年生へ、「インターンシップ体験報告集」は4月頃に3年生へ、学生係よりWeb 配信しております。

4．学生の健康管理について

令和4年度後期から、法文学部においても対面形式での授業に比重を移しております。教室の換気や消毒、アクリル板の使用などの感染対策を取りながら対面授業を実施しております。

保健管理センターでは一般診療や健康相談を行っています（通常は平日16時まで）。医師が常駐し可能な限りの対応をしているので、体や心の不調については、すぐに相談していただきたいと思います（感染症のおそれのある場合は事前に電話連絡のこと）。診察と医師の判断により行われるその場で可能な検査は無料です。

また、修学につまづきを感じたり、障害のある学生については、修学支援室（障害学生支援センター）で、専任の教員がプライバシーに考慮した相談を実施しています（平日9:00～17:00）。遠隔授業から対面授業への転換によって、かえって不安を感じたりしている学生には、お気軽にこのセンターをご利用いただければと思っています。

5．法文学部ホームページについて

従来ご指摘を受けております法文学部ホームページですが、限られた人員、予算制限の中で少しずつ改善を図っております。学生用に必要な情報提供の充実とともに、在学生や卒業生の活躍を紹介する企画を進めていますことをご報告申し上げます。

貴重なご意見や励ましのお言葉をいただき、誠に有り難うございました。重ねて御礼申し上げます。

令和４年度後援会役員一覧

会　長：松川 嘉孝　　副 会 長：長屋 博保
顧　問：松田 忠大　　常任理事：藤内 哲也
理　事〔保護者・社会人学生(本人)〕：
（法経社会学科）木村 恵美、松川 嘉孝
（人文学科）寺田 緑、早川 由香里
（人文社会科学研究科）浦元 駿
（臨床心理学研究科）長屋 博保
理　事〔教　員〕：
（法経社会学科）鳥飼 貴司、農中 至
（人文学科）近藤 和敬、富原 一哉
（臨床心理学研究科）宇都宮 敦浩
監　査：坂之上 千津子、澤田 成章
監　事：村山 敬三

問い合わせ先　**鹿児島大学法文学部後援会事務局**
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30　電話099-285-7510（7602）　FAX 099-285-7609
E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp　後援会ホームページ　http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/